

(4) 運動の日常化・習慣化に向けた実践例

【芦北町立田浦小学校の実践例】

① 自校の体力の現状と課題について

ア 児童の運動に対する意識の実態

意識調査から、「体育の授業が楽しい」と感じている児童の割合が低い。また、課題解決の場面設定や児童同士の活動場面設定が十分でなく、体育の授業改善が必要である。

イ 児童の運動習慣や運動環境の実態

スポーツクラブへの加入率は半数を超えているが、それ以外の児童は運動をする機会が体育の授業と休み時間しかなく、運動の二極化傾向が見られる。また、全児童の約半数がスクールバスで登校しており、運動の機会の減少につながっている。

ウ 体力・運動能力調査から見える課題

熊本県体力運動能力調査の結果、学校全体では、学年差、男女差が見られる。種目別では、立ち幅跳び、反復横跳び、上体起こし、シャトルランの数値が低く、筋パワー、筋持久力、敏捷性に課題がある。

② 課題を踏まえた学校の目標（共通実践事項）

1人1人が目標をもち、進んで体を動かす児童の育成

P 計画

③ 運動のきっかけづくりの計画について

ア 授業におけるきっかけづくり

運動が「わかる」ために学習シートを活用するとともに、互いの動きを見合ったり、教え合ったりしながら学習を進めることができる場面を設定する。

イ 運動の日常化・習慣化のマネジメント

体育的行事ごとに全校体育を設定し、児童の運動への動機づけをする。さらに、縦割り班活動の内容を工夫し、6年生が担当する会は体を使った遊び、体育委員会が担当する会は大縄跳びに取り組むようにする。

また、家庭と連携し、保護者や兄弟、友達と日常的に運動に取り組むことができるようにする。

ウ 運動環境の整備

雨天時だけでなく、昼休みは毎日体育館開放を行い、学級の全員遊などで活用できるようにする。また、一輪車や竹馬を使いやすいように整備し、外遊びで使えるようにする。さらに、体育委員会の活動として業間と昼休みには外遊びを奨励する内容の放送を行い、できるだけ多くの児童が体を動かして遊ぶことができるようにする。

D 取組の実際

④ 本校における運動するきっかけづくりの体験の実施

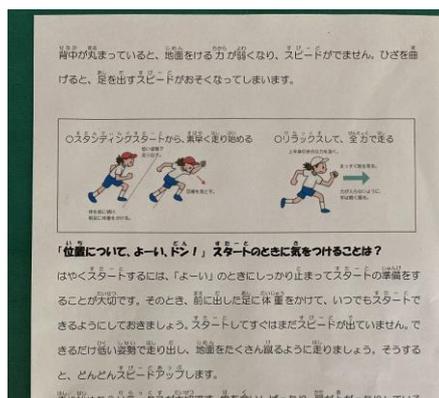
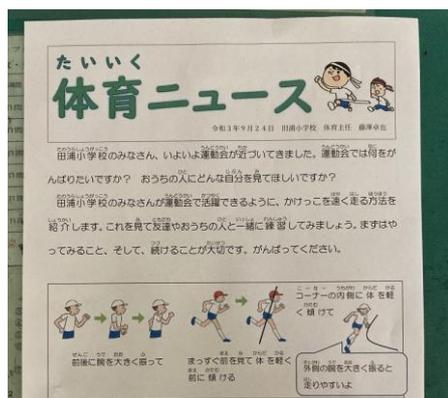
ア 「ランランタイム」（全校体育）の実施

2学期の始めから運動会の期間まで、朝のランニングタイム「ランランタイム」を行った。全校児童、全職員で実施し、自分のペースで最後まで走り切る児童の姿が多く見られた。また、運動が苦手な児童には職員が声をかけたり、一緒に走ったりしてサポートしながら学校全体で活動に取り組むことができた。運動会後は、体育委員会が主催し、ランランタイムを再開させ、現在も活動を続けている。



イ 「体育ニュース」の発行

運動の二極化傾向が見られるため、日常的に運動に親しむきっかけづくりと保護者への啓発をねらいとして「体育ニュース」を発行した。児童が運動に取り組むようになるよう、初回は「かけっこを速く走る方法」を紹介する内容にし、家庭へ配付した。今後は遊びの紹介や持久走の走り方、縄跳びの跳び方などを掲載したり、学校ホームページにも紹介したりし、親子や友達と運動に取り組むことができるようにする。



C 児童の意識や行動に関する変容の評価

⑤ 児童（生徒）の意識や行動に関する変容（◎：成果、▲課題）

- ◎ 運動会後は児童から「ランランタイムがまたやりたい」と声が上ががり、体育委員会が主催で再開することにつながった。児童の主體的な取組が運動の日常化へつながりつつある。
- ▲ 全校体育の内容がマンネリ化して、楽しめない児童も見られる。内容の工夫が必要であると感じる。

A 取組の見直し

全校体育は、ただ走るだけでなく、多様な動きを取り入れた内容に変更し、児童が楽しみながら運動に親しむ時間にしていきたい。